

臨床検査科この一年

臨床検査科係長 伊藤 亮二

はじめに

平成19年度の臨床検査科は、前任の渡部技師長が勤務期間1年を残して惜しくも退官され、堀医療技術部次長が臨床検査科技師長兼務となり、私が微力ながら当科の運営を引き継ぐかたちで新たなスタートと相成りました。

前技師長の早期退官については、いささか青天の霹靂の感がありましたが、引き継ぎを受けて実際の管理業務に携わってみると、それらの業務の重圧がいかばかりのものかを身をもって実感した次第であります。

新人技師とスタッフ

平成19年4月1日付けで、青野益美技師が新採用となりました。彼女は名寄出身であり、技師学校在学中は当科の見学に来た経緯もあって、思い起こせばわれわれと多少なりとも縁があったように思われます。諸先輩方にご指導とお叱りを受けながらしっかりと業務をこなしております。

平成18年11月の生理検査室検査補退職後に2名の検査補パートを補充させて、現在のメンバーは技師13名、検査補2名、検査補パート3名の総勢18名の構成になっております。

業務状況

平成19年度は士別市立病院小児科を当院に集約したこと、循環器内科の増員等で検査実施件数は殆どのセクションにおいて、対前年度比プラス10%台の数値を維持しております。

9月には坂本技師が検体検査から生理検査ヘローテーションしたことで、生理検査室は5人体制となりました。これからの病院増改築に伴う生理検査室拡充で、ABIおよびホルター心電図はもとより、エコー検査を主軸とした検査件数のさらなる増を期待するところであります。

おわりに（次年度にむけて）

平成20年度は病院増改築により生理検査室が拡充され、エコー検査が同一部屋で行われ、機器（装置）についても一元管理が可能となります。血管に係わる疾患がクローズアップされている昨今、エコーを駆使して血管の病変を探る検査の需要は、将来的に益々増えるものと思われま。

旭川以北の基幹病院臨床検査室としての機能をしっかりと維持しつつ、検体および生理検査共々診療部のニーズに幅広く応えていきたいと考えております。

実施件数（11月期までの累計）

	H19年度	H18年度	対前年比
一般検査	35,302	31,630	112%
血液・輸血検査	87,001	79,188	110%
生化学検査	574,002	516,715	111%
免疫検査	48,440	43,806	111%
薬物検査	1,662	1,512	110%
細菌検査	11,387	11,004	103%
病理検査	3,406	2,926	116%
生理検査	13,235	11,424	116%